公益社団法人日本ライフル射撃協会
２０２２年度第３回理事会議事録

日時：２０２２年9月２４日（土）　１３：３０～１６：００
場所：　東京都　新宿区霞ヶ丘町４−２ジャパンスポーツオリンピックスクエア１４階ルーム１及びオンライン会議（Ｚｏｏｍ）
出席者（＊　テレビ会議による出席）
理事：総数２７名中
松丸喜一郎会長　＊田村恒彦副会長　袴田登喜造副会長兼専務理事
＊横山幸子副会長　＊大野明敏常務理事　＊三木容子常務理事　平井宏治常務理事
＊佐橋朋木常務理事　＊近藤正晃ジェームス常務理事　＊源洋子理事　＊成山悟史理事
＊田口亜希理事　松島愛理事　＊上之園正一理事　＊酒寄貴瀬理事　＊穂苅美奈子理事
＊寺澤良悦理事　＊田中僚一郎理事　＊横沢聡理事　＊尾﨑和郎理事　＊髙橋信吾理事
＊仲本渚理事　＊五十嵐治人理事　＊田中辰美理事
以上出席２４名
監事：総数２名中　＊香西俊輔監事　＊岸髙清監事　以上出席２名
議事録署名人：松丸会長、田村副会長、袴田副会長兼専務理事、横山副会長、
香西監事、岸髙監事
袴田専務理事が１３時３０分に理事２４名出席で成立するとの宣言をした。
議長：代表理事　松丸喜一郎

事務局が、オンライン会議システムにより、出席者の音声が即時に双方向に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認して議案の審議に入った。

1　会長あいさつ
東京五輪・パラリンピック大会組織委員会の高橋元理事の贈収賄事件によるオリンピック及びスポーツのイメージダウンは計り知れない。我々スポーツ団体は、悪い意味で社会から注目されている。各競技団体共通の加盟団体内部の問題に加え、銃の安全管理が我々にはあるが、萎縮してはスポーツの発展はない。今までの活動に加えて、共生スポーツとしての貢献、ｅスポーツへの参入、射撃の医学的効用の検証等、新たな取り組みで発展につなげたい。

＜審議事項＞

2　総務委員会　　審議事項なし

3　推薦委員会　　審議事項なし

4　国体委員会

4.1　栃木国体における、コロナ関連による監督の交代（変更）に係る特別な措置について
平井委員長より、画面共有資料「４．１　栃木国体における、コロナ関連による監督の交代（変更）に係る特別な措置について」にもとづいて説明があった。

松丸会長より、協会としては国体監督の資格要件としてＢ級認定コーチ資格所持

を 2019 年に理事会で制定したが、コロナ禍もあり適用開始を 2022 年 4 月まで延期して、今年の栃木国体から厳格適用開始と決めていたが、残念ながら３県の監督が有資格者ではなかった。来年の鹿児島国体からは例外を認めない方針である。また日本スポーツ協会に日ラＢ級認定コーチ資格を監督要件として義務化するよう申請するとの説明があった。

藤井彌事務局長より、国体要件の監督資格としてＢ級認定コーチを追加するにあたり、以下の留意点が述べられた。

- 監督資格者が出場できない場合は、当該都道府県の射撃競技選手団全体が棄権した事になる。
- 日本スポーツ協会国体課によると、他の競技団体でＮＦ認定資格を必須としているところは、各都道府県５名以上の有資格者を擁しているので、資格者が１、２名の加盟団体は、他競技団体を目標に、有資格者の養成をお願いしたい。

議長がはかり、全員異議なく説明案を承認し、来年度の鹿児島国体からは監督資格としてＢ級認定コーチを国体要件として必須とする事を日本スポーツ協会にあげる事を確認した。

5　選手強化委員会

5.1　２０２２年度強化指定選手選考基準及び海外派遣要綱　追加変更

佐橋委員長より、資料「０５．０１_選手強化委員会　２０２２年度強化指定選手選考基準及び海外派遣要綱　追加変更」にもとづいて説明があった。

議長がはかり、全員異議なく説明案の通り承認した。

5.2　２０２３年ワールドカップ派遣に関して

佐橋委員長より、資料「０５．２_選手強化委員会　２０２３年ワールドカップ派遣に関して」にもとづいて説明があった。

議長がはかり、全員異議なく説明案の通り承認した。

5.3　エリートアカデミー候補選手に関して

佐橋委員長より、画面共有資料「０５．３_エリートアカデミー候補選手に関して」にもとづいて説明があった。

松丸会長よりエリートアカデミー生候補者についての JOC の基本的な方針は、協会が有望選手を発掘し、育成して全日本大会クラスで優秀な成績を収めている選手を推薦してほしいというもの。従い選抜は、大会の成績に重きを置いて選考しなければならない。来年の選考からは大会の成績に重きを置いた配点に変更する要請があった。

議長がはかり、全員異議なく説明案の通り承認した。

6　競技運営委員会

6.1　公認審判員規程、競技記録規程、段級審査表、電子標的再公認検定要領の改訂について

三木委員長が、画面共有資料「０６．１　公認審判員規程、競技記録規程、段級審査表、電子標的再公認検定要領の改訂について」にもとづいて説明した。
公認審判員規程について、以下の指摘があった。
袴田専務より：附則に１４項追加するとあるが、７項を削除した後に追加して１４項となるのか、番号に留意して付番すること。
岸高監事より：「五輪役員を経験した地方公認については」を「五輪役員を経験した地方公認審判員については」に訂正すること。
松丸会長より：ＩＳＳＦ審判登録料は、今後も協会が負担するという認識で正しいか。
→三木委員長：その通り。ＩＳＳＦ審判登録料は、今後も協会が負担する。

別表１　記録公認について、以下の指摘があった。
袴田専務より：対象種目の女子ビッグボア・ライフルの射距離について、男子同様に３００m、１５０m、１００m、５０mを記載すること。
別表２　日本記録及び国内最高記録について、以下の指摘があった。
袴田専務より：対象種目の男子ビーム・ピストル種目にある「ＢＰＦ４０MK」のＫは不要であり、「ＢＰＦ４０M」とすること。
袴田専務より：ミックスチームイベントの日本記録はステージ１であることを注釈として入れること。

議長がはかり、全員異議なく上記指摘を反映した案を承認した。

6.2　公認審判員について

三木委員長が、資料「０６．２　公認審判員について」にもとづいて説明した。

議長がはかり、全員異議なく説明された案を承認した。

6.3　日本記録について

粟生記録部会長が、資料「０６．３　日本記録について」にもとづいて説明した。

議長がはかり、全員異議なく説明された案を承認した。

6.4　全日本ライフル射撃競技選手権大会（１０mＡＲ／ＡＰ）について

松丸会長より、来年３月に福井で開催される全日本 10M　AR/AP 大会の本戦は 3/17，18 の２日間に変更し、男女混合の総合成績も導入し表彰をする。オリパラミックス種目は全日本 BR/BP 同様に全日本 AR/AP でも継続する。全日本 AR/AP 大会は共生大会としてメディアにアピールしていることから広報も重要である。そのため三木委員長と共に、マネジメントアドバイザーの平氏、清水氏、田中辰美

理事、門間広報部会長と競技運営方法や広報について検討を進めるとの説明があった。

7　普及・生涯スポーツ委員会　　審議事項なし

8　マーケティング委員会　　審議事項なし

9　コンプライアンス委員会　　審議事項なし

＜報告事項＞

10　マーケティング委員会報告

近藤委員長より、２つのデジタル化プロジェクトについて進捗の報告があった。

第１のｅスポーツプロジェクトについては、ＩＯＣのバーチャルスポーツ大会に射撃スポーツを加えるべく、ＩＳＳＦ内に松丸会長を委員長としたｅスポーツに関する委員会を立ち上げた。ゲーム会社との権利関係を調整の上、ＩＯＣと具体的な協議に入る。

第２のデジタル射撃プロジェクトについては、スマホを使った新たな射撃を協会自ら開発する検討をしている。デジタル射撃ソフトのデザインを仕上げ、競技者の方々からフィードバックを頂いた上で理事会に報告する予定。

11　会長報告

11.1 ふるさと納税補助金の加盟団体別還付金額について

松丸会長より、資料「ふるさと納税補助金の加盟団体別還付金額について」に基づいて報告がされた。

松丸会長より、以下の追加説明がされた。

- 今年に関しては早めに動きたいので、ブロック理事の方々には、周知をお願いしたい。
- ホームページ上の案内が会員あてになっているが、一般の方宛でもあるので、それに対応するように松丸会長が文書を更新する。
- ボタンを「説明」「申し込み」２つにわけて、視認性を高める。

11.2 基盤強化支援事業採択について

松丸会長より、ＪＳＣより令和４年度組織基盤強化支援事業助成金として１２，３６１，０００円の交付決定通知があり、３年間にわたって行う事業として承認された報告があった。

マーケティング委員会活動の人件費、普及・生涯スポーツ委員会の体験射撃会関連費用、及び社会貢献事業関連費用が補助の対象となる。これらは協会支出予算として計上していたので支出が大幅に減少するため補正予算を組むことも検討する。

11.3 各委員会次年度事業の補助事業化について

松丸会長より、平マネジメントアドバイザーに基盤強化支援事業申請を依頼し、採択されたことを受け、協会の自己財源で実施している各種事業についても、来年度のくじ助成やToto助成の活用を検討する。そのため各委員会の次年度事業計画（継続事業、新規事業）を平氏にヒヤリングいただき、補助事業として可能性のある事業は申請をする予定である。各委員長からの個別説明は１１月に実施予定との説明があった。

11.4 緩和措置終了のお知らせ

松丸会長より、資料「１１．４　緩和措置終了のお知らせ」に基づいて説明がされた。

松丸会長より推薦基準要綱における推薦対象の原則は年２回以上大会に参加する、又は参加できる競技者とされており、各種推薦規程はその原則に則って規定されているが、技能講習免除推薦だけは、「年２回以上又は３年で６回以上」とされていることから、２年間大会に出場しなくとも３年目に６回出れば推薦を付与しなければならず、実際に現在問題が発生している。ダブルスタンダードであるから３年６回以上の要件を削除して、他の推薦と同じように年２回以上に統一すべきだと考えている。

どなたか、３年で６回を加えた背景を知っている方はいますか、との質問がされた。

当時推薦委員だった森田参事より、当初警察は年２回で運用をはじめたが、要件未達者が出たので、警察が３年６回を加えたため、当協会の推薦要綱を警察の運用に合わせて３年６回を加えた、との説明がなされた。

緩和措置を１２月末で終了するが、緩和措置を講じた期間による要件未達については推薦委員会にて運用上で配慮していく。

12　総務委員会報告

12.1 各種規程の整理について進捗報告

藤井彌事務局長より、画面共有「１２．１　各種規程の整理について進捗報告」に基づいて進捗報告がされた。

12.2 ブロック会議について（口頭のみ）

松丸会長より、口頭にて本年度もブロック会議を行うとの報告がされた。

12.3 モダナイズ部会の作業報告（画面共有）

谷川部会長より、画面共有資料「１２．３　モダナイズ部会の作業報告」に基づいて、段級業務の迅速化について次の報告がされた。

段級業務の申請を１１月１日より成績報告シートに集約する。

今後としては、段級バッヂや証書等の廃止、及び基幹システム再構築や競技運営

システムの新規構築を検討する。

12.4 ＨＰ改変進捗報告（画面共有）

藤井彌事務局長より、リニューアル作業中の開発中ホームページが画面共有にて報告された。新しいホームページへの切り替えは、国体が終了した後に行う。

13 推薦委員会報告

13.1 審査結果報告

大野委員長より、資料「１３．１　審査結果報告」に基づいて報告がされた。

大野委員長より、推薦の審査にとって段級の迅速化が重要であり、最近は段級が推薦までに間に合わない問題も落ち着いてきた。モダナイズ部会の提案のように、競技会報告と段級申請が統一されれば更に円滑になる、

各加盟団体には、今後もご協力をお願いしたい、との補足説明があった。

14 国体委員会報告

14.1 栃木国体のエントリー取りまとめについての報告

平井委員長より、以下の報告がされた。

１．選手資格：会員登録忘れ　３名（区分移籍忘れ）

２．監督資格：Ｂ級コーチ未取得者　３名（うち１名は来年Ｂ級取得確定）

３．インテグリティー教育受講：有効期限切れ・未受講（申込時）１６名

14.2 国民スポーツ大会開催内定地の正規視察報告

平井委員長より「１４．２　国民スポーツ大会開催内定地の正規視察報告」に基づいて報告がされた。

14.3 栃木国体における、ルール及び運用について

平井委員長より「１４．３　栃木国体における、ルール及び運用について」に基づいて報告がされた。

15 選手強化委員会報告

15.1 ワールドカップチャンウォン結果報告

佐橋委員長より、資料「１５．１　ワールドカップチャンウォン結果報告」に基づいて報告がされた。

15.2 ２０２３世界選手権大口径ＣＰ自費派遣

佐橋委員長より、資料「１５．２　２０２３世界選手権大口径ＣＰ自費派遣」に基づいて報告がされた。

15.3 ２０２５デフリンピック

佐橋委員長より、資料「１５．３　２０２５デフリンピック」に基づいて報告がされた。

15.4 世界選手権派遣

佐橋委員長より、資料「１５．４　世界選手権派遣」に基づいて報告がされた。

16 競技運営委員会報告

16.1 徳島ＢＲ射撃場の件

尾崎認定部会長より、資料「１６．１　徳島ＢＲ射撃場の件」に基づいて報告がされた。

16.2 Ｇ１競技会公募について

三木委員長より、口頭にて、１２月に公募を開始すべく準備している、との報告がされた。

16.3 第８回　全日本小中学生ライフル射撃競技選手権大会（ＡＲ／ＡＰ）兼育成ナショナルチーム選考記録会の日程変更について

三木委員長より、口頭にて、ビームライフルとエアライフルを同日に行う、との報告がされた。

松丸会長より、エリートアカデミー候補生の実績として重要な大会になるため、今後推薦候補となる選手は参加するように留意すること、との指示があった。

16.4 １２月ＴＤ講習会（オンライン予定）

三木委員長より、口頭にて、実施詳細が決定したらホームページで告知する、との報告がされた。

16.5 １０月１日以降のルール及び運用について

三木委員長より、資料「１６．５　１０月１日以降のルール及び運用について」に基づいて報告がされた。１１月１日以降は、このルールに基づいて運用する。

袴田専務理事よりブロック理事へ、ＡＴＬは１０ｍと５０ｍが２５分前、ビーム種目は２０分前に統一するという事、及び同点については、ＧＴＲ６．１５を１１月１日から採用する事を加盟団体へ周知するよう、指示があった。

佐橋常務理事より、ファイナルについては東京２０２０形式で良いかとの確認があり、その通りであるとの回答が三木委員長からあった。

17 普及・生涯スポーツ委員会　　報告事項なし

18 コンプライアンス委員会　　報告事項なし

19 会務報告

- 藤井彌事務局長より、９月２８日に世界選手権前の記者発表を行う、との報告がされた。
- 藤井彌事務局長より、藤井優名誉副会長（２０２１　年度申請）の叙勲申請の進捗状況について報告がされた。

- 田中辰美理事より、ＷＳＰＳワールドカップの結果報告がされ、６月フランス・シャトールー大会で水田選手が６位入賞を８年ぶりにファイナル果たした事、及び８月韓国チャンウォン大会で水田選手が５位入賞、６人の選手が６種目で入賞した、との報告がされた。
  松丸会長より、佐橋選手強化委員長へパラ射撃の成績も成績報告のなかに入れるようにとの指示があった。

１６時００分議長が閉会を宣言した。
上記議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、出席した代表理事および監事が記名押印する。

２０２２年９月２４日

議事録署名人
公益社団法人日本ライフル射撃協会

議長・代表理事	松　丸　喜　一　郎	印
代表理事	田　村　恒　彦	印
代表理事	袴　田　登　喜　造	印
代表理事	横　山　幸　子	印
監事	香　西　俊　輔	印
監事	岸　髙　　清	印

以上